

## 参考文献一覧の書式 (小林ゼミ 卒業論文用)

リンク先は、「小林ゼミのひろば」の「卒論作成プラン」の中の「参考文献一覧の書式」

### 注意事項

- 1) 卒論題名 (仮題でよい)、氏名、作成年月日を冒頭に書く。
- 2) 文献一点につき 1 段落あるいは 1 行で書く。つまり途中で改行を入れない。
- 3) 各文献の書式は、文献の種類ごとの脚注の指示に従う。
- 4) 文献を列記したあとで、ワープロの「段落番号」機能を使って通し番号を付ける。
- 5) ここで作成した文献一覧を、完成した卒論の最後に<コピー><貼り付け>する。さらに、著者名のあいうえお順に並べ替える。

## 卒 論 題 名

### 参考文献一覧

氏 名  
作成年月日

1. 西垣透 (2001) 『IT 革命 ネット社会のゆくえ』岩波書店。<sup>a</sup>
2. 産業学会編 (1995) 『戦後日本産業史』東洋経済新報社。<sup>b</sup>
3. 小林正人／大高義穂 (1995) 「工作機械産業」産業学会編『戦後日本産業史』東洋経済新報社。<sup>c</sup>
4. 山口敦雄 (2001) 「内製化進める家電メーカーと専門の強み発揮する半導体メーカー」『週刊エコノミスト』4月3日。<sup>d</sup>
5. 小林正人 (2001) 「IT 革命と日本経済」『行財政研究』第 47 号。<sup>e</sup>
6. 小林正人 (1998) 「インターネット／イントラネットの経済的・社会的利用の諸形態」京都大学『経済論叢』第 161 巻第 1 号。<sup>f</sup>
7. ウィリアムズ, マリ [永平幸雄／川合葉子／小林正人訳] (1998) 『科学機器製造業者から精密機器メーカーへ：1870－1939 年における英仏両国の機器産業史』大阪経済法科大学出版部。<sup>g</sup>
8. ペパーズ, ドン／ロジャーズ, マーサ [井関利明／沢崎冬日／ワン・トゥ・ワン・マーケティング協議会訳] (2000) 『ONE to ONE マネジャー』ダイヤモンド社。<sup>h</sup>
9. Juergens, Ulrich (ed.), (2000) *New Product Development and Production Networks*, Springer-Verlag.<sup>i</sup>
10. 「ネット新車販売仲介。米 GM など正式発表」『日本経済新聞』2001 年 9 月 15 日。<sup>j</sup>

<sup>a</sup> 著書 {標準}: <著者名> (<出版年>) 『<書名>』 <出版社>。 註: “月日”までは不要。

<sup>b</sup> 著書 {編著}: <編者名> 編 (<出版年>) 『<書名>』 <出版社>。

<sup>c</sup> 論文 {共著の著書}: <論文筆者>/<論文筆者> (<出版年>) 「<論文題名>」 <編者名> 編『<書名>』 <出版社>。 註: 著者名が複数のときは「/」で区切る。

<sup>d</sup> 論文 {一般雑誌}: <論文筆者> (<発行年>) 「<論文題名>」『<雑誌名>』 <月日>。

<sup>e</sup> 論文 {学術雑誌}: <論文筆者> (<発行年>) 「<論文題名>」『<雑誌名>』 x 号、<月>。 註: 発行所が不要で、通し番号の<号>だけある (<巻>がない) 場合。

<sup>f</sup> 論文 {学術雑誌 2}: <論文筆者> (<発行年>) 「<論文題名>」 <発行所> 『<雑誌名>』 a 巻 b 号、<年月>。

<sup>g</sup> 次の脚注を見よ。

<sup>h</sup> 著書 {邦訳書}: <著者名>/<著者名> [ <訳者名>/<訳者名> 訳] (<発行年>) 『<書名>』 <出版社>。 註: 欧米の<著者名>は<“姓”, “名”>と書く (著者名の“姓”のあいうえお順に並べるため)。著者名や訳者名が複数のときは「/」で区切る。

<sup>i</sup> 著書 {外国語}: <author> (<year>) <book title>, <publisher>。 註: <author> は <“last name”, “first name”> の順に書く。<book title> は斜体 (イタリック体)。

<sup>j</sup> 新聞記事: 「<見出し>」『 <新聞名> 』 <掲載年月日>。